



改正

有職小説

二

五

9

73
3668
2



保3
368
2

右識小說卷中



官爵

官位職ハレヨク 代スレ醉編ニ云唐制ハ有勳ハ有官ハ有階ハ
 有爵ニ々ニ以定尊卑ニ官以分職務ニ階以叙ニ
 勞勳ニ以叙功ニ云又云如公侯伯則謂之ニ
 爵ハ左右柱國ハ正治正卿及資治尹之類則ニ
 謂之勳ニ特進ハ光祿大夫ハ以及兼德郎ハ
 之類則謂之階ニ宗人令ハ尚書侍郎之類ハ

職ハ從中

則謂之官云云儀禮注云爵者位次高下之稱也。白虎通云爵者祿也。所以盡人材也。云云凡官位職ノ三ハ。帝道ノ樞機。天下ノ權衡也。尤其人ヲ選テ授ラルト云リ。神皇正統紀ニモ。君ノ猥ニ授ルヲ謬舉トシ。臣ノ監ニ受ルヲ尸祿トス。謬舉ト尸祿トハ。國家ノヤブル、端王業ノ久レカラザル基也云云

百官

朝廷ニ置ル、處ノ諸官ノ通稱也。員數百アルノ所以ニアラス。繁多ノ謂ナリ。

古事記ニ百官人ヲ。モ、ノツカサヒト、訓ス

撰関 帝道輔佐ノ重職。五撰家ノ中。大臣タル人器量ニ依テ。其選ニ當ラル、更トソ。撰政関白ト。称呼ハ異也トイヘドモ。職掌ハ全シ。但し関白ハ常ニ置ル。撰政ハ。幼主女帝ノ御時。是ヲ居ラル。天子ニ

撰関 帝道輔佐ノ重職。五撰家ノ中。大臣タル人器量ニ依テ。其選ニ當ラル、更トソ。撰政関白ト。称呼ハ異也トイヘドモ。職掌ハ全シ。但し関白ハ常ニ置ル。撰政ハ。幼主女帝ノ御時。是ヲ居ラル。天子ニ

撰関 帝道輔佐ノ重職。五撰家ノ中。大臣タル人器量ニ依テ。其選ニ當ラル、更トソ。撰政関白ト。称呼ハ異也トイヘドモ。職掌ハ全シ。但し関白ハ常ニ置ル。撰政ハ。幼主女帝ノ御時。是ヲ居ラル。天子ニ

撰関 帝道輔佐ノ重職。五撰家ノ中。大臣タル人器量ニ依テ。其選ニ當ラル、更トソ。撰政関白ト。称呼ハ異也トイヘドモ。職掌ハ全シ。但し関白ハ常ニ置ル。撰政ハ。幼主女帝ノ御時。是ヲ居ラル。天子ニ

撰関 帝道輔佐ノ重職。五撰家ノ中。大臣タル人器量ニ依テ。其選ニ當ラル、更トソ。撰政関白ト。称呼ハ異也トイヘドモ。職掌ハ全シ。但し関白ハ常ニ置ル。撰政ハ。幼主女帝ノ御時。是ヲ居ラル。天子ニ

代リ奉テ、政務ノ更ニ預レル美也。幼王十六歳ノ後ハ、攝政ヲ辭シテ、関白ニ改補セラル、ノ例也。

執政 博陸、攝籙、皆以テ攝政ヲ斥リ。

執柄、殿下ハ関白ヲ云。殿中、終言、殿中

將ナド、申侍ルモ、関白ノ子息ヲ云トソ。

但中華ニテハ、皇太子、諸王ヲ、殿下ト稱ス

ト見エタリ。凡異域ノ宰相、本朝ノ執柄、武

家ノ執權名異ニシテ職均シ。皆是國

家ノ柄ヲ執ル棟梁ノ臣也

則闕官 太政大臣ヲ斥テ云。官ノ名ニハ非

ス。當官ハ人臣先途ノ至極ニシテ。天地

則テ天下ノ法ヲ立。陰陽ニ順テ。政ヲ

正シ。國土ノ制令ヲ修ス。棟梁ノ職掌

アレバ。且八九竜ノ悔ヲ恐レ。且ハ其任ニ勝

サラン更ヲ憚リ。家臣ハ是ヲ固辭シ

王者モ又是ヲ止メラシ。則闕ノ羨也トゾ

封号ホウガウ

封八國郡ノ守護ニ補セラシ。其土ヲ

領ジテ。制法ヲ正スノ羨也。往古大政大臣

當官ニテ薨セル人ハ。一國ノ侯ニ封セラシ。

公ノ謚号有レ例故。中古以來執終ノ以

前ニ。必當官ヲ辭スル者ニ成テ。公ノ謚モ

断絶ス。淡海公ニ起リ。仁義公ニ終ト云

所謂 不比等 淡海公 良房 基經

越前 昭宣公 忠平 信濃 實頼 尾張 伊尹

三河 謙徳公 兼通 遠江 頼忠 駿河 爲光

相模 恒徳公 公季 甲斐 廉義公

三公 大政大臣。左右大臣ヲ云。前漢天文志云

三公六星。兩々而居。在人爲三公。在天爲

三台。云本朝ノ諺ニ。天子ヲ一人。太子ヲ

一人。関白ヲ一人。相國ヲ一人。左府ヲ

一人。右府ヲ一人ト云。醍醐帝ノ御宇ヨリ

起レリトソ

正一位 大臣ノ極位ナル故。中古以來。在世ノ

間ハ。多分是ヲ叙セラレズ。贈位マデナリ

太織冠 正一位相當ノ冠ノ名也。往古ノ

制ナリ。天智帝。藤原鎌足公ニ授ラルト云

准后 准三后大臣ト云。又准宮共云リ。皇

太后宮。皇后宮。中宮。此三官ノ年給ニ

劣ズ賜トノ義ナリ。隨分ノ御賞翫ヲ

以テ。授ラル、ノ官ナリ。普通ノ人ノ沙汰

ニアラス。邂逅ノ例也。故ニ禁門ヲモ。輦

車ニ乗テ出入スル吏トソ。列位ノ時モ。官

方。親王家ナド對座云

氏長者 王氏。源氏。藤氏。橘氏ノ家ニ限レ

リ。藤氏ニ於テハ。撰閔タル人。則氏長者

タリ。源氏ニテハ。辨學。淳和。兩院ノ別當

職ニ補セラル、人。氏長者タリ。伏見院

朝ヨリ。久我家エ累世傳續アリ。承德
三年正月。鹿苑院殿源義満公當職ニ補セ
ラレレヨリ。將軍家へ御相續ノ度ニ

成レリ

内外辨ナイゲシ叙位シヨ除目ジモク。其外諸ノ節會セチエノ時
兼明門ノ内ニテ。事ヲ辨シ務ル。一ノ太
臣ヲ。内辨ト云。兼明門ノ外ニテ務ル
二ノ大臣ヲ外辨ト云。委ハ江次第ニ見

エタリ

是定セデタ叙位シヨノ時。橘氏ノ爵シヤクノ度ヲ掌ル
人ヲ云。橘家微ビニ成テ。寛和ノ比中関
白道隆タカ大納言タリシ時。宣旨ヲ蒙ムラレ
以來。摂家ノ中ニテ。此職ヲ兼カラルト云
准大臣シ内大臣ノ下。大納言ノ上ニ列ス。是
ヲ儀キ同ト三司シト云。三司ハ三公ノ意ナリ。
三公ノ儀キニ同等ノ美ナリ。帥シ大納言

伊周。坂京ノ後。寛弘二年。准大臣ニ任セラル。其時儀同三司ト。自稱セラレシニ起レリ。

散一位 准一位共云リ。大臣ニ任セスレテ。

位ノ三一位ニ進ムヲ云。多ハ大納言タル

人。叙セラル。ノ例ナリ。然レハ大納言

ヲ辨スル夏トソ

傍三位 散三位共云リ。参議ヲ歴ズレテ。

三位ニ叙セララル。ヲ云

非参議 前官ノ公卿。無官ノ三位三位ヲ云

勲位 勲一等ハ正三位ノ下。從三位ノ上。勲

二等ハ。從三位ノ下。正四位上ノ上。勲三等

ハ。正四位下ノ下。從四位上ノ上。朝散等ハ

從四位下ノ下。正五位上ノ上。勲五等ハ。

正五位上ノ下。從五位上ノ上也。云云神皇

正統紀云。上古ニハ勲功アレバトテ。官位ニ

進ム夏ハナカリキ。常ノ官位ノ上ニ勲位
ト云品ヲ置テ。一等ヨリ十二等マテ
アリ。無位ノ人ナレド。勲功高クテ。一等
ニアガレバ。正三位ノ下。從三位ノ上ニ列
ナルベシト見エタリ。又本位アル人。是ヲ
兼タルモ有ヘシト云

權大納言 大中納言ニ限テ。權官ヲ正官
トス。自餘ノ官ニ於テハ。正官ヨリ權官

ヲ輕シトス。

參議 是ヲ官ト謂ズシテ職ト云。異名ヲ

宰相ト云。本朝ノ故實也。但位署ノ時ハ

或ハ源參議。或ハ管參議ナド、書。名ヲ

呼時ハ。或ハ平宰相。或ハ藤宰相ナド、

云リ。唐名ヲ相公ト号ス。野相公小野江

相公大江ナドノ類ナリ

公卿 月卿。卿上ナド、モ云。參議三位以上

摠名ナリ。但公ハ。撰。関。三公。内大臣。儀同
 ナリ。卿ハ。大中納言。参議。三位以上。散位
 ナリ。参議ハ四位相當トイヘ共。公卿ノ列
 タリ。参議位署式ノ時ハ朝臣ト書リ
 是ヲ某朝臣ト云ク交ヲ受ヘシ
 上達部。公卿ノ摠名ナリトイヘ共。大形ハ左
 右太將。大中納言。三位中將。宰相。中將。春
 官。大夫。侍從等ヲ云トゾ
 三位中將。大臣ノ息。又ハ孫ナトノ内ニテ任

叙セラル。公武共ニ規模アル夏ナリ
 大理。檢非違使ノ別當ヲ云。参議以上ノ
 兼職ナリ
 上卿。天子仰出サレノ肩アル時。公卿ノ中
 ニテ一人。陣座ニテ。其夏ノ摠奉行シテ
 證據ニ立ヲ云。節會ノ内外辨ニ等シ
 職事。辨官ニテ。裁人頭ヲ兼タル人ヲ云
 頭辨是也。規模アル重職也

頭中將 藏人頭ニテ中將ヲ兼タルヲ云。大納言ニテ。或ハ太宰帥。或ハ彈正尹ナド兼タル人ヲ。帥大納言。尹大納言ナド云カ如シ

藏人頭 貫首共云リ。是殿上人ノ上首タル故ノ名ナリ。山門ノ座主ヲ貫首ト云ニ義全シ

參陣辨 中官。親王。將軍ナドノ宣下ノ時。

當人ノ公卿禁中ニテ陣ノ儀式ヲ行ルナリ。其時夏ヲ掌ル辨官ヲ云

南曹辨 大學寮ノ東西ニ管江兩家ノ曹司アリ。又南ニ南曹アリ。藤氏長者タル人ノ管領スル処ナリ。其辨官ヲ云。但春日。真福寺。多武峯ナドノ用夏ヲ達スル者ニテ。尤藤氏ノ人ノ兼職ナリ

京官 大政官。八省。彈正臺。廷尉。藏人。六衛府。ナドヲ云。此内兵部。兵庫。隼人。左右馬。廷尉。衛府。ナドノ如ク。弓。箭。ヲ帶スル官ヲ武官ト云。九職。九寮。九司。ナトヲ文官ト云。太宰府。按察使。鎮守府。受領。ナドヲ。外官ト云。都テ官ノ次第。一京官。二文官。三武官。四外官ト云。殿上人。雲客共云リ。四位。五位。中少將。侍。

從等ノ。何レモ昇殿スル人ノ通稱也。王者ヲ日ニタトヘ。公卿ヲ月ニ比シ。殿上人ヲ雲ニヨソヘタル也。又殿上人ノ字ヲウヘノヲノコト訓ズ。捨テ諺ニモ、レキノ大官人ト云ルハ。月卿雲客ノ夏ヲ斥リ。モ、レキハ。文選ニ百寮ト書リ。禁中。百官ノ座席ト云ノ也。又位署式ニ。朝臣宿祿。ナト書ハ。四位以下ノ人ノ故實也。口

位ヲ受ベシ

散位

四五位ノ無官ノ人。自稱ノ辨ナリ。

官職ヲ散ジテ。位計トイヘル謙退ノ意ナ

リ。中古以來。前官ノ公卿モ。位署式ノ時

ニ非參議ト不書。散位ト載ラル。堀川

院。和哥御會ヨリノ例也ト云又六位

ノ人。散位ト書ハ。受領ノ久。掾ニ限ル

夏トソ

地下

四五位ニ叙ストイヘ共。累世昇殿ヲ

聽サレザル家アリ。是ヲ地下ノ諸大夫ト云

四位諸大夫

四位ハ既ニ殿上人ノ例ナリ。

其中ニイマダ昇殿ヲ聽サレザルヲ云

無官大夫

公卿ノ子息。童躰ノ時ヨリ。五

位ナリ。故ニイマダ元服セサル人自稱シテ

云ル。平敦盛ノ類是也

諸大夫

侍ノ叙爵スルヲ大夫ト云。諸大

夫ハ則五位ノ摠名ナリ。又五位以下ノ官ニ任シテ昇殿ヲ聽サレガル人ヲモ云リ。凡大夫ノ文字官ノ時ハダイブト濁テ訓ス。九職ニ限レリ。位ノ時ハダイフト清テ唱フ。五位ノ通稱ニ限レリ。八省。九寮以下太夫ナレ。然ルニ式部丞掃部助右近將監左衛門尉ナド六位相當ノ輩叙爵スル則バ式部太夫右近大夫

ナド、稱ス。是官位ヲ取合テ呼ノ義ナリ。又大夫ヲ判官共云リ。檢非違使尉討ハハウクハント呼。是又故實也。源義經此尉ニ任セラレシ故ニ九郎大夫判官ト云トゾ

武林

幕府 大樹幕下。皆以テ左右近衛大將ノ居所ヲ云。當官ハ朝廷武官ノ棟

采トシテ。古今最重職ナリ。大納言是
 フ羨ルヲ規模トス。然レハ大納言ト不
 謂シテ。大將ト称ス。大臣是ヲ羨ル則
 ハ。大將ト不謂シテ。大臣ト称スルノ
 例ナリ。又参議ニテ大將ヲ羨ラレシ
 先蹤。采花物語。河海抄ナドニ見エタリ
 柳營 將軍ノ居所ヲ云。前漢ノ周
 亞夫。將軍ト成テ。長安ノ北。細柳ノ地

ニ營ヲ構シニ起レリ
 殿中 營中。御所。御殿。皆以テ公方家
 ノ居所ヲ云
 將軍 神代ニテハ。經津王命下總武甕槌
 命常陸是ヲ盪觴トス。人代ニ到テハ。
 神武帝ノ朝。道臣命ヲ始トス。崇神ノ
 御宇。大彥命。武甕津彥。丹
 波道王命。此四臣ヲ以テ。菴夷戎狄ヲ

平ラレン爲ニ。四方へ分遣サレレヨリ。將軍ノ
号起レリ。○征夷使ハ日本武尊。東夷ヲ
征シ給ノ時ニ始ム。○鎮守府ハ陸奥出
羽ノ守リタル人兼職也。○將軍ノ相當ハ
五位タリ。南朝。北島。二位頭家ノ卿ヲ
鎮守府將軍ニ補セラレシ時。其位高シ
テ職卑ガ故ニ。相當ヲ思量有テ大ノ字
ヲ加ラル。是。大將軍ハ中。華ニテモ。大凡

三公ニ等キガ故也トソ。副將軍ハ。將軍
ニ相次ノ重職也。賴朝卿ノ治世以來。斷
絶云云

公方家 鹿苑院義滿公 尊氏孫 義詮男 天下ニ大

功アルヲ以テ。太政大臣。從一位ニ登庸執
柄家ニ准。扱セララル。ニ付テ。是ヨリ將軍
家ヲ公方家ト云。永和四年。室町ニ新
館ヲ構テ。居住アルニ依テ。京都將軍

家ヲ代々室町家共云リ。薨去ノ後、本
上天皇ノ尊号ヲ贈ラルトイへ共、持
固辨シテ復シ申サルト云く在世時武
家ノ品ヲ十一位ニ定ラル。所謂一族大名
守護外様評定衆供衆中次番方
國人奉行未男ナド也。武家直臣ノ
輩件ノ十一級ニ漏ル者ナレトソ
惣追捕使 諸國守護地頭ノ首ナリ

往古朝廷ヨリ。天下ノ政務有レ時ハ其國
毎ニ國司ヲ下サレ。成敗ヲ掌レメラル。
後鳥羽院。右大將頼朝卿ニ。始テ諸國
惣追捕使ノ號ヲ賜レヨリ。四海ア
子ク。武家ノ管領ト成レリ
節度使 節乃使共書リ。節ハ符節ノ
印ナリ。漢書注云節以毛爲之。上下
相重取象介節因以爲名將命者持

之爲信云云朝敵退治ノ爲。指向ラル、
大將ノ夏也。龍ノ御旗ヲド賜テ。萬
民ヲレテ。私ナラザル疑ヲ避ラルノ
所以ナリ。日本紀ニ。景行帝ノ日本武
尊ニ斧鉞ヲ授ラレ。東征セシメラレ
レ夏見エタリ。是本朝賜節ノ權ハ興
成ベシ。夏文類聚云云。自高宗永徽以
後。都督帶任持節者謂之節度使。

猶未名官。開元天審以後名官。唐百
官志云節度使掌總軍旅中誅殺
云云代醉編云符謂之節。尺謂之度。
節取其有限。度取其不差云云此義
ヲ以テ唐ノ代節度使ノ号ヲ立タリ。
元ハ孝經ニ制節謹度トアルニ起レ
リトシ。猶事物紀原ニモ見エタリ
追討 天子ノ仰ヲ蒙テ。將軍ノ出陣ノ云

征伐 仙洞ノ仰ヲ奉テ。將軍ノ出陣ヲ云
進發 綸旨院宣ナド賜リ。節ヲ持シテ
遠國ノ凶徒退治ニ赴クヲ云

動座 禁將又ハ三公ナトノ出陣ヲ云
發向 將軍私ノ出陣ヲ云

著春長 將軍家御著用ノ甲冑ヲ云
調度掛 東鑑ニ出タリ。諸家ニ沙汰有
テ本説未詳。或ハ張弩懸ノ宇共云リ。

凡將軍家出行ノ時ハ。不意ノ武備ト
シテ譽アル勇士ノ中。弓箭ヲ帶シテ
將軍家ノ傍ニ副行ヲ云リ。掛ルトイ
ヘバトテ。肩ナドニ負荷スルニアラス。手
シテ持支ナリトソ。猶口交源義家。深
夜ニ女ノ許。忍テ罷ラレシ時。安陪宗任
ニテ。箭持シメ。只一人俱セラレシ。是ニ依
テ盜賊ノ難ヲ避ラレシ。宇治拾遺

二見エタリ。是モ古代ノ由緒ニコソ。又
劔ノ役ヲ勤ヨリ。沓ヲ規模トス。本據
東鑑ニ見タリ

上意。公方家仰ノ旨ヲ鈞命。台命。上
意。御談ナド、云。何ニテモ下ヨリ申上
ルヲ言上ト云。聞召ル、ヲ。台聽。台聞
上聞ナド、云。御出ヲ出御。入給フヲ
入御。出行ヲ。御成。取給フヲ還御。御面

兒ヲ台顔何ニテモ見給フヲ台覽。上覽
御イタハリヲ。不例。違例。所勞ナド、云。
諸侯以下。柳宮工參ルヲ。參勤。參府
ナド云。出仕ヲ登城。御使ヲ上使ト
云リ。此外濟々略之

御下文。公方家ヨリ御家人ニ采地ヲ宛
行ル、時又ハ成敗ナドノ美ニ付テ。賜ル
處ノ判物ナリ。發端ニ下スノ一字アリ。

在議小談中

中央ノ傍ニ公方家ノ袖印ヲ押レ下ニ
件ノ家人ノ官氏實名ヲ載其次ニ要
用ノ旨趣ヲ書テ終ニ年号月日ヲ記
スト云云當時斷絶

御教書 上意ノ旨ヲ受テ管領ノ書
出ス文書ナリ實名ヲ省キ官受領ノ
下ニ花押アリ是又當時斷絶
施行 時ノ威ナドアル者上意ノ旨ヲ受

テ。文書ニ認メ是ヲ管領ニ達ス管領
是ヲ受テ御教書ニ副テ書出スヲ
云當時是又斷絶

御内書 公方家直判ノ御書ヲ云
奉書 上意ノ赴ヲ受テ奉行人ノ書出
ス文書ヲ云

下知狀 公方家成敗ノ義ニ付テ黒印朱
印等ノ判物ヲ出サル時其要文ノ

百成、院口

二十

外内ノ上意アル者ナドヲ奉行人ノ
奉テ書下ス文書ヲ云故ニ文ノ終ニ
執達如件ナド書ル也

執權 執事共云リ武家ノ宿老家長也

京都將軍家ノ時是ヲ管領職ト云

三職 武衛 斯波 細川 畠山ノ云此三家

ヨリ交代ニ管領職ヲ勤ラル將軍者詮
ノ時斯波高經足利ノ門葉トシテ器

量勝レタルヲ以テ天下ヲ管領シ給ルヘ
キ旨命セラレヨリ執事ヲ管領トハ
云トシ

四職 山名一色京極赤松ヲ云三管領ノ
家ニ續テ規模アル家ナリ

相伴衆 三家四職大名守護ナトノ
中ニテ器量ノ人ヲ以テ定ラレトシ

武林ハ 千葉ハ 上総ハ 三浦ハ 狩野ハ

新編源氏物語

秋田城、大富、櫻、大井、伊、大内、大友、秋
○源氏、夕負、卷ノ揚名、大東鑑ノ三、大十
ドハ口決ノ莪也。師説ヲ受ヘシ。此外○
坂東、八平氏ハ、千葉上総。三浦土肥、秩父
大庭、梶原、長尾○鎮西、九黨ハ、大友、秋
月、惟任、惟任、戸次、山澄、菊池、原田、松
浦○武藏、七黨ハ、丹治、私市、兒玉、猪股
西野、横山、都築○鎌倉、八家ハ、千葉、小

山、長沼、結城、佐竹、小田、宇都宮、那須、
侍所別當 武家ノ重職也。頼朝、卿ノ時、和田、
義盛、是ニ補ス。司ハ、梶原、景時、厩別當
ヲ兼タリ。職事ハ、藤原、親能ト云云。
寺社奉行ハ、頼家ノ時、建久五年、中原、季
時ヲ始トストシ。
所司代 東山殿、義政ノ時、京極、大膳、大夫
佐々木、持清ヲ、侍所司ニ補セララル。然、兵

百載、八、九、中

三十一

持清ハ江州ニ在テ代トシテ多賀豊後守

中原高忠ヲ京都ニ置シム是ヲ監觴トス

ト云傳タリ但是ヨリ前都築山城入道看俊ト云者貞和元年ノ比所司代タル由太平記

三宅荻野謀叛ノ卷ニ見エタリ

保孫一存男六郎即壞津ニ在テ泉河二州ノ成敗ヲ

司シ是ヲ世ニ政所ト云ケルヨリ起レリ

旗本公方家直參ノ諸士ヲ云幕下麾

下ノ辭ニ摠レリ

叢林

門迹セキ法親主ノ居ヲト給フ寺院ヲ云リ

又ハ門主主共申ス寛平法皇クニ仁和寺ニ

宸居シキヲ構サセ給シヨリ起レリ御門ミカド

ノ迹ト云美也トノ後世官門迹ミヤ撰家

門迹公方門迹清華門迹ナド次

弟シテ其差別アリ所謂シラバ〇仁和寺ニシ

洛西大内山カド大覺寺カト野郡勸修寺クニシラ南川科

有護小...

聖護院 東山、足崎、本山 三審院 下醍醐号、菩提寺、常山、修驗者

松件八密宗ニテ戒騰次第。東寺ノ長者

ニ補セララル。但近世院家エ讓附ト云

本山方是ヲ熊野山伏ト云。役行者熊野ヨリ大峯

ヲ攀テ。吉野エ出ラレ遺流也。順入峯是ナリ。當

山ハ修驗道中絶レテ醍醐ノ聖審。吉野ヨリ

逆ニ熊野エ出ラレヨリ起レリ。逆人峯是ナリ

常修院 北山、大原世云、掘井殿、往古 音蓮院 宿

郡下西栗田始 鳥部山、藤号 妙法院 新日吉、門主 曼珠院

号十樂院 世云竹門主、往古北山ノ後、尊 尊重護法院 山科

毘沙輪主寺 野州、日光山 件八台宗。此内常。

青妙ノ三門主。戒薦次第交代ニ比叡山

ノ座主ヲ兼ラル。曼珠院。輪王寺モ補セ

ラルノ例也。○照高院 川白 田滿院 三井

實相院 岩倉 件八台宗ニテ。園城寺ノ長

吏ヲ三ヶ年宛交代ニ勤ラル。○隨心院

小野号 密宗。東大寺ノ寺務也。○一乘院

醍醐寺。大乘院。件八南都ノ兩門主トテ。法相宗

二二三

有言ハ...

二十四

ヲ兼テ。真福寺ノ法務ヲ交代ニ勤ラレ
 ○知恩院ナラシ東淨土宗也。方丈ハ関東檀
 林ノ中。戒腊次第是ニ補セラル。本願寺
 六條東西東ヲ御裏ト称ス。光佐上人ノ息。光
 壽ビユヲ始トス。西ヲ御表ト称ス。光壽ノ
 弟。光昭セウヲ始トス。共ニ准清華大僧正
 ニ至ル。真正寺ミウセウ。理性院モ。並ニ本願寺ノ
 慶流ケリウニシテ。正僧正至ル。右ノ内官門迹

ハ四品ホシヨリ。叙セラレ一品ニテ至リ給フ。
 故ニ僧正マテヲ召仕ル。夏ナリ。撰家。清
 華ノ門迹ハ。其身大僧正ヲ極官トセ
 テル。故ニ法印ニテヲ仕ハル。トゾ
 法親主 王子ノ落飾有テ。親門ニ入給
 後。親王宣下アルノ号也。康和元年正
 月。仁和寺ニキヤカクギヤ官覺行ヲ始トス。續世繼ニ
 見エタリ

入室イラシム 官方及攝清ノ公達キキダチ。門迹カドヅメエ本院ノ

夏ナツヲ云

護持僧ゴチソウ 天子ノ御祈禱ミキタマシ執行ノ門主カドヌシ方カタ云

直居僧チキソウ 河海抄カウセウ云内裏ノ二間ニマニ候マツルテ終

夜加持ヨカチニイル僧也ソウヂ云云

座主ザヌ 貫首クワンシュ共云リ。比叡山ヒエノ延曆寺エンリヤクノ統領トウリョウ

ヲ云。座主ノ夏ハ親氏シナノ要覽ヨウランニ見エタリ

長者チヤウシヤ 東寺統領トウジツリョウノ僧ソウヲ云

長吏チヤウシ 園城寺エンシヤウジ勸修寺コンシュジノ司ツカサシヲ云

法務ホウム 興福寺キョウフクジノ統領トウリョウ。三論サンロン法相ホウサウノ長也

檢校ケンギョウ 高野山タカノヤマ金剛峯寺コンカウボウジノ統領トウリョウヲ云

院イン 播州書寫ハクシュウシヤ四教寺シキョウジノ住持ジュウヂヲ云

寺務ジモト 諸大寺シヨウダイジノ統領トウリョウノ通稱ツウシヨウナリ

國師クニシ 天子ニ法悟ホウゴヲ傳奉ツクル僧ソウ。此号コノナメヲ賜タマフフ

國主ノ師德シトクト云ノ也。祖庭ソテイ夏苑カキヅミニ見エタリ。

本朝ホンテウニテモ室町家ムロマチ以來イザナ多ク例タテマツルアリ。此外コノトモ

禪家ノ和尚。琵琶法師ノ檢校。勾當ノ類。皆京
都將軍家ヨリ起レリ。今按後醍醐ノ朝明不衣
覺一ト云アリ太平記ニ見
エタリ彼ハ如一檢校カ法眷也トゾ然レハ
檢校ノ号ハ鎌倉將軍家ノ末ヨリ起レルニヤ又上人ノ号。
正權ノ差別アリ。長老阿闍梨ナドノ類ハ。
官職ニアラス。位ノ相當モナシ。年齡德行ノ義稱。
公帖。五山臨濟ノ僧。官位ニ昇ル時。公方
家ノ許狀ナリ。首座以上ニ授ラル。是又
室町家以來ノ例也。

遷化。諸門迹以下。出世ノ僧ノ死去ヲ云。
釈氏要覽云。釈氏死。謂涅槃。山寂滅。
度。遷化。順世。皆一義也云。
院家。門迹ノ下ニ屬テ規模アル寺ナリ。
譬ハ若王寺。勝仙院ハ聖護院ノ院家。
日嚴院ハ妙法院ノ院家。等ノ類ナリ。
畢竟門迹ノ隱居所ト云ノ義ナリ。
出世。消僧又ハ山伏ナドノ中ニテモ。年。藤

アルヲ云

坊官 門迹方ノ家司ナリ。魚肉ヲ食シ。妻
 帯。剃髮ノ者也。本ハ東官方ヨリ出タル
 名ナリ。春官坊ノ官人ト云ノ羨ナリトソ
 侍法師 有髮ニシテ。普通ノ侍ヲ云。凡門
 迹方ノ候人御禮ノ列ハ。院家。出世。坊
 官。侍法師。衆徒ト次第スルナリ
 女官

御息所 東官親王ノ御妻ヲ云。近代ハ東

御方。南御方ナド云リ

北政所 親王家。関白家ノ妻ヲ云。但宜下

蒙テ称セラルノ号也

大廳 栞家ノ母堂ヲ云

小廳 栞家ノ妻ヲ云

御臺盤所 公方家。大臣。大將ノ妻ヲ云

北御方 簾中共云リ。公卿ノ妻ヲ云。當時

清華家。及公方家ノ連枝方。妻ヲ。押

ナベテ云云

女王ニヨロワ 親王ノ女メヌヲ云。但天子御ミコ孫ミマニテ

女王ト稱ス。五世ニ追ヲヨミテハ。命婦メウブ。官人クニノ列レニ

入ルト云云

官女キム 官クニ女。女官。皆以テ禁中奉公ノ婦女

ヲ云

勾當カウドウ内侍ウチノサヘ 内侍ウチノサヘ掌ヲ四人ヨリアリ。尚侍ウケサヘ相當ウチノサヘ從ト

ヲ長官チヤウカントシ。典侍テンサヘ相當ウチノサヘ從トヲ次官ジヤクカントシ。掌テ

侍サヘ相當ウチノサヘ從トヲ判官ハンカントス。其中ナカニニテ第一ダイイチ上臈ウエノサヘ

ヲ勾當カウドウ内侍ウチノサヘト云。長橋局チヤウキョウクウ也。近代公方家

ノ内書ウチノカキ。國字クニノジ文ヲ以テ。此内侍ウチノサヘニ宛アテラル。

内侍ウチノサヘ是レヲ奏達ソウダツシ。則勅命ソクメイノ旨ヲ奉ウケテ

國字クニノジノ文書ヲ整トス傳奏デンソウニ傳ツ。女房

奉書ホウショト云是ナリ

上臈ウエノサヘ 二位。三位ニ叙スル典侍テンサヘヲ云。種姓シュウセイ

ノ甲^カ乙^ニニ因^ヨストイヘ^レ。大^カ寮^カ大臣^カ家ノ息^メ女^メ或^シハ孫^ノ女^ナナド也。此^レ次^ヲ小^ノ上^ノ薦^トト云。是^レモ公^ノ卿^ノ女^ナナリ。中^ノ薦^ハ諸^ノ大夫^ノ女^ナ。下^リ薦^ハ地^ノ下^ノ侍[。]或^ハ加^茂ハ幡^ノ社^司等^ノ女^ト云云

更衣^カ 天子^ノ御^衣召^カ更^ノ所^ヲ掌^ル上^ノ薦^ヲ云。多^クハ女^御ニ轉^ス。故^ニ然^ルヘキ上^ノ達^部ノ女^ナド。其^選ニ當^ルト云云。又

更衣^カノ文字^ハ漢^書ニ出^タリ。猶^ハ河^汾ニ委^ニ

御^匣 常^寧殿^ノ北[。]貞^觀殿^ノ中^ニ御^匣

殿^ト云^{アリ}。内^藏寮^ノ外^ノ御^服裁^縫所^ナリ。是^ヲ掌^ル上^ノ薦^ヲ則^チ御^匣ト云

宣^旨 院^御所^ノ雜^吏執^次ノ女^官ヲ云

命^婦 五位^{以上}ニ叙^スル官^女ヲ云。但是^テ内^命婦^ト号^ス。故^ニ五位^{以上}ノ妻^ヲ外^ノ

命婦ト云。〇鞞負命婦ト云ハ。衛門ノ
命婦ナリ。源氏物語ニ見エタリ。今世内
侍ノ次ニ御下ト云アリ。其中ニ命婦。女
藏人ナトアリ

女藏人ニヨクラド 下臈ノ藏人ヲ云。上品ノ藏人ヲ
ハ命婦ノ藏人ト云

節折藏人ニシ 節折ノ命婦共云リ。名越被
ノ時。ト部家ヨリ竹ヲ獻ジ。此官女ニ傳

へ。天子ノ御身体ノ長ニクラベ。被ヲ勤ル

夏ナリ。故ニ節折ト云

執翳ハ 朝賀ノ時帳ヲ褰ル女房ヲ云

采女カ 水司モトツカ 膳司カハデツカノ被官ニシテ。天子御

配膳ノ女房ナリ。往古ハ諸國ヨリ郡

縣ノ多少ニ應シ。義女ヲ選テ貢シケルト

ク。日本紀廿五ニ見エタリ

得選ト 御厨子所ノ女房ナリ。采女ノ中

ヨリ選テ置ル、故ニ得、選ト云。即位節

會ナドノ時。天子ノ御理髮カイツクカヒシモ勤トソ

乃自ト負共書リ。事ハウシユ會ニ見エタリ。天

子御膳方ノ女房ヲ云

女孺メノコ諸司ノハセツカヒ使ノ女房ナリ。都テ御所

中ノ掃除。秉燭ヒトモシ。指油等ノ夏ヲ勤ム。

本槩賀茂八幡ナドノ社人ノ女ナリ

東アサヒ堅子ツルギ是ヲヒメ松共云リ。一産サシ三子ノ

中ノ女ヲ用ラル、ノ例トソ。公ウヂ夏根源ニ詳

也。凡ツ三子ノ先蹤シヤク。續日本紀ニ。文武帝

四年十一月。和州葛上郡一産カシキカミ二男一女云

類聚國史ニ大同二年三月。相州愛甲郡アイカウ

人。國吉ト云ル者ノ女。一産二子云云東鑑

ニモ二位禪尼ゼンニ治世ノ時号三平。鎌倉カミクラニテ

一産三子アリ。皆以テ官府ヨリ俸祿ホウロクヲ

賜タマフノ由見エタリ。本草經目五十二ニモ。

人生三子ヲ王太平云云

服器

冠カシリ

天子ハ透額スキトイヲ用ラル。暑ヒヨ天ニハ半額ハンナリ。公卿モ十五歳ニテハ透額ナリ。十六歳以後。厚額アツヲ用。透額ハ羅ワニテ張額ノ透ス如ク拵モシラタル者也。都テ冠ハ束帶ノ時著之。衣冠ノ時ハ烏帽子ウボナリ。又冠ノ髮カミヲ包ム者ヲ巾子コジト云。

巾子ノ後ニ立ル者ヲ臚ラト云。臚ノ後ニ

垂ル者ヲ纓チト云。兩ノ耳ヲ掩フル者ヲ

綉フ井カケト云。綉ツラヌヲ貫ク者ヲ串クシト云。

卷マ纓チ 大將以下。五位以上。弓キウ箭センヲ帶

スル人。纓チヲ卷マナリ。又柏カハ夾ハサミト云。夏ナツア

リ。卷マ纓チトハ不フ空カラ

烏帽子ウボ 頭ノ上左ヒダリニ折返マゼシ左折ヒダリト云。

侍從以上著ス。右工折返マゼヲ右折ヒダリト云。五

位以上著ス。今世侍從以上ハ糸緒ヲ以テ結ヒ。四品以下ハ紙緒ヲ用フ

御衣ギヨギ 天子ノ御装束セウゾクヲ云。ヲホンゾト訓ス

吳服ゴフク 天子及公方家ノ御衣服ヲ云

衮冕ゴンメン 古ニ章トテ。即位朝賀ナドニ天子

ノ召ル、御衣裳イシキヨノ織物ナリ。所謂。日

月。晨。山。龍。華。夷。宗。彝。藻。火。粉。

米。黼。黻。云云。晨ハ星ナリ。華、夷ハ雉子

ナリ。五彩サイヲ備ル禽トリナル故用之。尚書注

ニ見エタリ。宗、彝ハ本名裸然ト云。仁

獸ニレテ孝慈アリ。本、草網目ニ云。狀如

後。白面黒頰。多髯ヒゲ而毛彩ハシ斑斕ハシ。尾長

干身ヨリ其末有岐マタ。兩則以岐塞耳フミミ云云

黼ハ斧ノ象。十字ニ則リ。陰陽合レテ

全キノ美ナリ。五車イタ勻瑞ニク云。裳シヨウ繡シウ斧

形取其威断也。黻ハ。説文云。黒与青

相次文也。周禮注云取臣民背惡向善
亦取君臣有合離之義。去就之理云
○又衮龍ト云ハ降龍ノ象。卷龍ノ
事ヲ斥リ。毛詩國風ニ見エタリ

禮服 即位太嘗會朝賀ナトノ時天子

ノ召ル、御服ヲ云。諸臣ニ於テモ美全シ

帛 天子神夏奉幣ナドニ召ル、御衣

ヲ云。白キ平絹ナリ。夏ハ生衣。冬ハ練

衣ヲ用ラルト云

袍 天子ノ御上服。麤塵袍ヲ。青色也。

山鳩色トモ云リ。常ニハ黃櫨染ヲ召ル

ルナリ。御紋ハ桐竹。鳳凰ト云云。○仙洞ノ

袍ヲ赤色ト云。○儲君以下。親王ノ袍

ヲ黃衣ト云。淺黃色ナリ。○雲立漏

ト云ハ拱闕ノ袍ノ紋ナリ

綬 平緒ノ如ク組テ乳ノ下ヨリ結テ

垂ル者ナリ

魚ギョ袋タイ 石ノ帯オビニ付ル者ナリ。公卿ハ金。四

品以下ハ銀ヲ用フ。夏ハ唐書イ府フナ

トニ見エタリ

裾キヨ 是ヲ下レタ襲ガサノ下ト云。近代長短ノ制

不定。太カ緊カ大臣ハ一丈四五尺。大納言ハ

一丈二三尺。参議ハ八尺。四位ハ七尺ト云

撰家。將軍家ナドハ。弓ニ掛テ持セラル

公卿ハ自身左ノ手ニ持。殿上人ハ石ノ

帯ニ懸ル夏トソ

表ウラ袴ハカマ 往古ハ是ヲ褶ヒラミト云。袴ハカマノ上ニ加ル

者ナリ

奴サレ袴ハカマ 指貫共書リ束ク帯タイノ時著レ之ミ。自

綾ノ袴ナリ。常ノ袴ノ如ニレテ。裾スジヲ

指縫ヌヒク、リタル者ナリ

禁キン色セキ 指貫ニ紋モンノ付タル者ナリ。衣冠ノ

時著之。殿上人ニテモ。大臣ノ子。或ハ孫ニテ
勅免ノ上著用ト云

直衣

禁色ヲ聽サレシ人著之。但羽林

家ハ殿上人ニテモ著之。規模ノ夏也

水干

紗ニテモ平絹ニテモ用之。大納言ニ

テハ内ニテ著之

長絹

公卿童躰ノ間著之

直垂

堂上方ノ著アルハ絹ナリ。地下ハ布

ヲ用傳云直垂ハ元武家ニリ起レリ

麁服ヲ著ス時モ。是ヲ以テ掩ノ故ナリ

古來軍將ハ赤地ノ錦ナドヲ用。諸士ハ

絹又ハ布ナドヲ以テ。家ノ紋ヲ標シ著

セシトク

大紋 諸大夫著之。則布直垂ナリ。胸緒

系紐ヲ用。素襖袴ハ胸緒ニ革ヲ用

是ヲ以テ差別トス

布衣 ホリ 狩衣ナリ。今世衣紋アルヲ狩衣トシ無紋ヲ布衣ト云。武家ニ於テハ平侍ノ中規模アル吏役ノ者著之

退紅 タイカウ 良家ノ下官著之

白張 ハクシヤウ 下賤ノ官人著之

潤色 ジュンシキ 装束ノ張直ヲ云

御劔 ギョケン 禁將ノ御太刀ヲ云

龍御旗 リウゴヒ 天子ノ御旗ヲ云。翠華ト云モ

御旗ノ異名也

鳳輦 ホウレン 翠輦。瑞輿。鸞輿。五輅。竜駕

竜輦。皆以テ天子御乗物ノ名ナリ。但シ

舉行ヲ曰輿。輓行曰輦。云凡天子ハ

鳳輦ナリ。御車ヲ用ル莫ナシ。后官

官方ナドハ只御車ト申ス莫トソ。副

陣ハ供奉ノ官女ノ乗ル車ヲ云。延喜

式ニ見エタリ。河海抄ニハ入給車共書リ

屬車ト云モ全シ。貞觀政要云。鷹輿有
前屬車有後云云。文選注云。屬車天子
後車也。又出シ衣ト云ハ。車ノ簾ノ下
ヨリ。女房衣ノ袖ヲ出スヲニ

輦車ハシヤ輿ニ輪ヲ掛タル者也。モシテ輓ヒキ

行ナリ。三公トイヘ共。勅許ヲ不蒙シテ
乘。夏不叶レ美ナリ。漢書注云。天子所
乘曰輦。又云。駕入以行曰輦。

牛車ギツ王子。公方家ナド。御免ノ宜。下有テ

是ヲ用ラル。大内中御門際ギバニテ。乘給
フ夏トソ

龍頭レト鵠首ドウダキシユ天子ノ御船ヲ云。鵠ハ水鳥ノ

名ナリ。是ヲ船ノ頭ニ畫ク。龍ハ元ヨリ
水ヲ得。鵠ハ風ヲ受ル者ナルユヘ。是ヲ
象テ。水上ノ難ヲ避ルノ美ナリ。淮南
子ニ見エタリ

鳳^{ホウ}身^{セキ} 天子ノ御^{ミツ}香^{コウ}ヲ云

驛^{エキ}路^ロ鈴^{スズ} 勅^{ウケタマハク}命^{ノミ}ヲ奉^{ホウ}テ遠^{トウ}國^{クニ}ニ向^{ムク}フ者^ノ鈴^{スズ}

ヲ授^{サヅク}ラル。驛^{エキ}路^ロニニテ。是^{コト}ヲ振^{フリ}鳴^ネシテ

支^シ證^{シヤウ}トス。軍^{イクサ}將^{シヤウ}ニ節^{セツ}ヲ賜^{タマフ}ニ義^ギ全^{ケン}シ。堀^{ウラ}川^{カハ}

院^{ヰン}百^{ヒャク}首^{シュ}ニ。ム^ムマヤツタヒノ鈴^{スズ}ト讀^{ヨク}ル是^{コト}ナリ。

和^ワ哥^カ色^{シキ}葉^{エフ}云^ク官^{クワン}使^シノ行^{ユク}テ宿^{ヤド}ル處^{トコロ}ヲ驛^{エキ}路^ロ

ト云^ク。官^{クワン}ヨリ鈴^{スズ}ヲ賜^{タマフ}テ。其^{コト}ヲ金^{カネ}ニシテ。

驛^{エキ}ニ著^{ツク}毎^マニ振^{フリ}鳴^ネシテ宿^{ヤド}ルナリ。國^{クニ}王^{オウ}ノ

七^{シチ}鈴^{スズ}ヲ以^{モツ}テ。七^{シチ}道^{ダウ}ニ遣^{ツカス}スニハ。官^{クワン}使^シニ一^{イツ}宛^{ケン}

賜^{タマフ}ル也^{ナリ}トアリ

玉^{キヨウ}宸^シ 天子^{テンシ}御^ミ座^ザノ後^{ノチ}ニ立^{タツ}ル屏^{ヒラカ}風^{フウ}ヲ云^ク。步^フ

障^{サテ}ノ如^ニキ者^{モノ}ナリ。文^{モン}選^{セン}注^{チュウ}云^ク。宸^シ屏^{ヒラカ}風^{フウ}也^{ナリ}

天子^{テンシ}所^{トコロ}居^イ後^{ノチ}有^{アル}屏^{ヒラカ}風^{フウ}云^ク云^ク

官^{クワン}本^{ホン} 天子^{テンシ}ノ御^ミ書^{ショ}籍^{セキ}ヲ云^ク

宿^{シヤク}紙^シ 水^{スイ}雲^{ウン}紙^シ共^ニ云^クリ。淡^{タン}墨^{ボク}色^{シキ}ノ料^{リョウ}紙^シ是^{コト}

ナリ。往^{ユク}古^コ堂^{ドウ}上^ノ家^カ。艷^{エン}書^{ショ}以^{モツ}下^ノ反^{ハン}故^コヲ

以テ。北野ノ南。紙屋川又号仁ニテ渡セラ
レシニ起レリトソ。故ニ是ヲ紙屋共云リ
檀紙 萬葉ニ陸奥ノ檀ノ紙ト讀ル是ナ
リ。往古陸奥ヨリ檀ノ皮ヲ以テ。渡出セ
レ故ノ名ナリトソ。河海抄ニ見エタリ。大
高。中高。小高ノ制アリ。俗ニハ是ヲ引
合ト云。又王羲之カ所用蚕蚕紙モ此
紙ニヤト云。夏古文諺解ニ出タリ

色紙 中華ニ所謂彩牋ナリ。裨庭夏苑
云。以色加紙曰牋。又唐ノ元和年中元稹
ナリ色ノ彩牋ヲ造シ夏。博物志ニ見エタリ
短册 傳云頓阿法師修行ノ次。不破關
ニ到テ。詠スル處ノ和哥ヲ。関屋ノ庇
板ニ記シテ。冷泉爲世卿工贈ケルヨリ。
短尺ノ制起レリ。然レバ短尺忠度ナド
申樂家ニ謂モ謬レリ。葉室家或云時長
或云時房

撰^{セシ}ノ盛衰^ノ記ニモ。箴^{エヒラ}ニ付ラレシ文ヲ見レ
 バト記サ^ル。證^{シヤ}トスベシト云云。今^{ホト}按^ス江家次
 弟ニ既ニ短冊ノ字出タリ。往古ヨリノ
 制ト見エタリ。猶可尋^ズ之

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

